

科 目 名	医療機能薬学特論Ⅲ				
担当教員名	教授 鍋倉 智裕 教授 松浦 克彦 准教授 上井 優一	単位数	2 (90分授業 15回)	配当学期	秋学期
講義の概要	<p>生体内に投与された薬物は、投与部位から循環血液中へ移行し全身を巡り標的組織へ運ばれ、薬効を発揮する。薬効を最大限に発揮し、副作用を最小に止めるためには、薬物の体内動態を適切に予測する必要がある。薬効や副作用を体内の薬物動態から定量的に理解できるようになるために、薬物動態の理論的解析に関する知識と技能を習得する。</p> <p>臨床論文を正しく理解し活用することは、薬物治療の適切化や臨床研究の実施において必須の知識およびスキルである。本講義では、代表的な研究デザインを題材とし、知識およびスキルを習得する。また、プロトコールに基づく薬物治療管理について、その方法と実践について理解する。</p>				
準備学習 (予習・復習など)	<p>受講前にシラバスに記載されている授業内容に関連する教科書の該当箇所を予習すること。講義内容、教科書、配付プリントをまとめ、復習すること。各回の講義前に、およそ120分を目安として予習・復習をすること。</p>				
講義の内容・ スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物動態学序説、薬物の吸収・分布 2. 薬物の代謝・排泄 3. 薬物速度論(1) コンパートメントモデルとノンコンパートメントモデル 4. 薬物速度論(2) 生理学的薬物速度論(PBPK)とPK/PD解析 5. 薬物排泄の分子機構(1) 6. 薬物排泄の分子機構(2) 7. トランスポーターと薬物動態(1) ABCトランスポーターとSLCトランスポーター 8. トランスポーターと薬物動態(2) トランスポーター機能阻害・発現誘導による薬物相互作用 9. 臨床論文の理解と活用—ランダム化比較試験— 10. 臨床論文の理解と活用—システマティックレビュー— 11. 臨床論文の理解と活用—コホート研究— 12. 臨床論文の理解と活用—症例対照試験— 13. 臨床論文の理解と活用—患者への適応を考える— 14. 薬剤業務に基づいた研究(1) 15. 薬剤業務に基づいた研究(2) 				
評価方法 (基準等)	レポート(50%)、口頭による質疑応答(50%)				
教 材	教科書：NEW パワーブック生物薬剤学・配付プリント				